

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成20年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
20-5	緻密で良く曲がるセメント系材料を用いた補修・補強工法	名古屋大学 教授 中村 光	A

< 研究の概要 > 成果報告レポートより引用

本研究開発は、優れた「力学性能」、「耐久性」、および「施工性」を有した“緻密でよく曲がる”超高強度ひずみ硬化型セメント系材料(Ultra High Performance Strain Hardening Cementitious Composites, UHP-SHCC)を用いて、床版の上面増厚工法、表面保護工法、被災したコンクリート構造物の早期復旧工法、のそれぞれについて実用化を目指す。

< 事後評価結果 >

プレミックス化、吹き付けへの対応、物質移動性への抵抗性確認試験及び試験施工を着実に実施するなど、床版補強や表面保護といった実際の現場に近い条件で超高強度セメント系材料の適用性を確認し、実用化に非常に近い成果が得られており、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。

< 参考意見 >

1. 本材料の特性を活かした有効活用に向けて、試験施工を通して施工性を確認し、早期の実用化を目指してほしい。
2. 補強設計手法の確立と他工法に対する優位性・コストの整理が、実施工においては必要不可欠である。
3. 実用化にかなり近い成果が得られていると考えられ、現場での試験施工などにより、実用化のための継続的な研究が望まれる。
4. 研究成果のさらなる普及促進に向けて、国内外の主要関係学会や国際ジャーナルなどへの成果発表が望まれる。